

岡山東支援学校は、「交流及び共同学習」を大切にしています！

「交流及び共同学習」のよさは？

お子さまにとっては、小中学校での教科の学習や学校行事などとおして、多様な考え方に触れ、コミュニケーションの力を高めたり、お互いの個性の理解を深めたりする学びの場となります。また、より多くの仲間と活動をとにもすることにより、社会性を身に付けることも期待されます。

1 「学校間交流」(東支援の近隣の学校との交流)

岡山東支援学校では、A小が古都小学校、B小が竜ノ口小学校、A中・B中が旭東中学校、A高・B高が東岡山工業高等学校と学校間交流を行っています。

互いの学校を行き来したり、オンラインでつながったりしながら、様々な活動を楽しんでいます。



2 「居住地校交流」(自宅の近隣の小中学校との交流)

「居住地校交流」は、小中学部のお子さまが、自身の住んでいる地域の小中学校で、その学校に在籍する子どもたちとともに、学習を行う活動です。

交流及び共同学習のよさに加えて、自分が住んでいる地域の同年代の子どもたちとともに学ぶ経験を通して、住んでいる地域で人間関係を広げていくことも期待できます。

「居住地校交流」のイメージ

希望を受け、相談をしながらお子さまに合わせて進めています。

Pattern

1

交流籍を置く(地域の小中学校の友だちに名前を知ってもらう)

実際に交流するわけではなく、まずは、小中学校の子どもたちに、「この学校(クラス)には、〇〇さんという友だちがいて、今は東支援学校で学んでいるよ。お店や公園で会ったらなかよくしてね。」などのように伝えて、知ってもらいます。

Pattern

2

間接交流する(地域の小中学校の友だちと作品やお手紙でつながる)

お手紙やビデオレター、作品紹介などを通して、地域の子もたちとつながる活動をします。また、東支援学校のことを知ってもらうため、東支援学校からのお便りを小中学校の子どもたちに読んでもらうなどの活動をすることもあります。

Pattern

3

オンラインによる交流をする(地域の学校とオンラインでつながる)

ビデオ会議システムを用いて教室同士をつないで、地域の子もたちとつながる活動をします。お互いの自己紹介をしたり、活動を紹介し合ったりします。

Pattern

4

直接交流する(地域の学校で活動する)

保護者の方に協力していただき、保護者と担任が見守る中、お子さんが地域の小中学校に行き、同年代の子どもたちと一緒に様々な学習活動を行います。



音楽の授業に参加
(地域の小学校にて)